

新たなチカラ

富士山静岡空港では、空港としての機能や利用者の利便性をさらに高めるため、施設の整備などを行っています。

「空港ティージャーデンシティ構想」の実現に向けて

県は、空港と周辺地域を本県の空の玄関口にふさわしく、魅力溢れる空間とするため、22年12月、「空港ティージャーデンシティ構想」を発表。「空・茶・風・海」の4つの道により、空港周辺地域の観光資源



滑走路側から見た石雲院展望デッキの完成予想図

の魅力を引き出します。構想の中核として、石雲院西側に県の有識者会議や地元の見を取り入れた「石雲院展望デッキ」を整備しています。

同デッキは今年12月に完成予定で、空港利用者や地域の皆さんの憩いの場所としての活用が期待されます。石雲院展望デッキ概要
・面積855㎡、直径約33m、高さ約10m

新駐機場の増設

既設の駐機場（エプロン）における、昼前後の航空機発着の混雑解消や小型機の終日駐機可能な体制の確保、緊急時の予備駐機場の確保などに対応するため、今年3月に従来の駐機場西側に新たな駐機スポット（箇所）を3機分増設し、運用しています。これにより、駐機可能なスポットは従来の5箇所から8箇所となり、小型機やチャーター機の増加などが期待できます。



新たに増設された西側駐機場

3月10日には、県知事や空港周辺地区の市町長、国会議員など関係者が出席し、記念式典が行われました。

旅客搭乗橋の整備

駐機場の国際線用駐機スポットの2つを利用した、より円滑な運用と航空機の利便性を高めるために、ターミナルから直接、旅客機に搭乗可能な旅客搭乗橋（ボーディングブリッジ）の整備に現在、取り組んでいます。旅客搭乗橋は、今年11月までに完成する予定です。

富士山静岡空港サポーターズクラブ・企業サポーターズクラブ メール会員募集中

富士山静岡空港サポーターズクラブとは

会員が富士山静岡空港への愛着を感じ、空港を活用することで会員の生活の豊かさが向上することを目的とした、同空港を応援するための個人会員組織です。

- ①富士山静岡空港発着の旅プラン、キャンペーン情報、会員向けイベント情報などの情報がメールで届きます。
 - ②県内や就航先の協賛店で、会員登録を提示することにより、さまざまなサービスが受けられます。
 - ③会員限定のツアーや富士山静岡空港や航空機をテーマとしたイベントなどに参加できます。
- ▼登録方法
▶パソコンから
HP <http://www.fs-airport.com/> にアクセス

▼携帯電話から(①か②)

- ①上記QRコードの読み取り
- ② fsa@airport.com に空メールを送信

企業サポーターズクラブとは

富士山静岡空港を利用し、応援する企業で構成する組織です。
国内の企業の事務所または事業所
入会の条件
▼富士山静岡空港の積極的な活用やPRをすること
▼事務局が実施するアンケート調査などに協力すること
申込方法
ホームページなどにある申込書をFAXまたはメールで提出してください。
なお、申込時に、商業登記簿謄本など事業所名、所在地および代表者名が確認

できる書類を併せて提出してください。

- ①キャンペーン期間中(9月30日までの出発)、出張などで富士山静岡空港を利用の場合、片道2500円を会員に返金します。
- ②富士山静岡空港の搭乗待合室内売店での飲み物券などを提供します。
- ③富士山静岡空港発着の旅プラン、キャンペーン情報、会員向けイベント情報など、富士山静岡空港に関する情報がメールで届きます。

入会金・年会費 無料

問い合わせ

富士山静岡空港利用促進協議会(社団法人県商工会議所連合会内)
☎054(252)8161
HP <http://www.fs-airport.com/>

地域の手で空港を育て、地域と一緒に空港も成長

リーマンショックや新型インフルエンザの流行、東日本大震災の発生など、開港後の状況は大変厳しいものでした。その中で3周年を迎えることができたのも、県民や市民の皆さんが空港を利用し、支援して下さったおかげです。

富士山静岡空港の特徴は、観光とアウトバウンド(静岡から出発すること)が中心であることに加えて、国際空港としての位置付けが顕在化していることです。本空港の外国人の出入国者数は全国約100の空港中、第8位(22年度統計)です。仁川国際空港(韓国)などのハブ空港に接続しており、手軽に世界各地へ行くことが可能にな

りました。台北線の新規就航や上海線の武漢延伸などがさらなる国際線の好調を後押しするでしょう。今後は、現在就航している路線を強化しつつ、新規路線の開拓を行い、インバウンド(静岡に到着すること)とアウトバウンドのバランスを取っていきたいです。

年末には石雲院展望デッキが完成します。県は地元の皆さんと連携して、空港を核とした地域の魅力づくりを進めていますので、さらなる飛行機の利用と共に地域でのイベントの開催や参加などにより、皆さんの手で空港を育てて盛り上げていてもらいたいと考えています。

INTERVIEW

富士山静岡空港の現状や今後のあり方などについて、県の担当者に聞きました。



静岡県文化・観光部 君塚秀喜 部長代理

市民も率先して空港を利活用

ティージャーデンシティ構想の「風の道」や「茶の道」を歩く「富士山静岡空港ウォーク2012」が5月13日、本市内と島田市内を巡るコースで開催されました。

構想への理解を深め、同時に健康づくりをしてもらおうと両市のウォーキング団体が企画。榛原総合運動公園ぐりんばるや坂部区民センターなどを出発し、いずれも静岡空港東側展望広場を往復する3コースに、市内外からウォーキング愛好者や親子連れなど約500人が参加しました。参加者は五月晴れの中、広大な茶園や旅客機の離着陸を眺めながら、空港周辺地域の散策を楽しみました。



坂部区民センターを出発するコースの参加者ら

地域発展の拠点に

空港が開港して3年。国内線の運休や減便、国際線の新規就航、駐機場の拡張、展望デッキの整備など、空港を取り巻く状況は変化しています。その中で、明確になりつつある富士山静岡空港の「国際化」という方向性。震災の影響は未だ残りますが、既存路線や新規就航路線の成長、富士山の世界文化遺産登録に向けた取り組みなどが、富士山静岡空港の利活用を後押しするでしょう。

既存路線の強化や新規路線の開拓、施設整備など課題はありますが、空港を地域発展の拠点にするべく、私たち地域住民が率先して空港を利活用していくことが大切です。

